

いきいき健康生活

鴻巣市広報「かがやき」 平成21年12月15日号 掲載

覚せい剤の恐怖

薬物依存の中で、今とても世間を騒がせている覚せい剤とは、麻黄（マオウ）という植物から作られたメタンフェタミンという物質のことです。これを使用すること、並びに所持することは法律で厳しく禁じられていて、もし所有していることがわかれば逮捕されます。

覚せい剤を暴力団などから違法に買い取り、自分の体に注射をしたり、飲んだり、アルミホイルの上であぶってその蒸気を吸ったりしていると、やがて覚せい剤中毒症という大変恐ろしい精神病になってしまいます。

覚せい剤を使用すると、最初は一時的にとても気分が楽しくなり、疲れもウソのように取れて、何日に寝ないで勉強ができたり働くことができるようになります。まるで自分が超人にでもなったような気持ちになる、魔法のような薬に思えるのです。

ところが、この素晴らしい作用も一時的であり、効果が切れると、今度は一転して疲労感がつのり、気分がものすごくゆううつになり、不安でイライラして、もうどうして良いのかわからなくなってしまいう状態になります。

そのため、それから逃れるためにまた使用してしまうことになり、こうして覚せい剤を乱用することになっていくのです。

覚せい剤の乱用で何が恐ろしいかという、やがてそれらが精神病へと発展していくからです。コンビニや駅に行くと、みんなが自分を変な目で見ている、何か自分のうわさをしている、いつも監視カメラでみられている、家には盗聴器がしかけられ話すことが全てつつぬけになっている、そのうちに「おまえを殺すぞ」という声が聴えてきて、怖くて怖くて、殺される前に自分が死んだ方がまだ、などという異常な精神状態になっていくのです。

そして、精神科の病院へ入院することが必要になり、立ち直るまでにとても長い時間がかかるのです。「覚せい剤には絶対に手を出してはいけない」と、肝に銘じておきましょう。